

県産品登録ってなんだ！

新緑の季節もあつという間に過ぎ、晴れ男であり、傘が嫌いな私としては、あまり好きではない季節がやってきた。

この度、愛媛県において俗名「県産品」、正式には新商品生産による*新事業分野開拓者認定制度に、セルドロンを申請して頂けることとなった。

申請して頂くのは、弊社の株主である愛媛県松山市在の東昇技建株式会社様が、四国全域のセルドロン販売を目的として新たに設立して頂いた東昇商事株式会社様である。

この制度はもとも中小企業庁が地場産業育成を念頭に、全47都道府県に向けて奨励した制度であり、事実いずれの自治体でも制度化されている。

但し、それぞれの自治体によってこの制度に対する温度差があると聞いているのだが、なかでも愛媛県は検索サイトでも常に1〜2番目に出てくることから、とても力を入れているのではないかと思われる。

2月号にてお伝えしている通り、農業用ため池の多くが四国に集中し、その耐震補強工事が急務となつてきている。

その多くは江戸時代に作られた農業用ため池の底には多くの泥（浚渫土・シユンセツド）が堆積している。

専門家に聞いた話であるが、水圧より、泥圧の方が圧倒的に大きく、総体積の約1/3が泥になると壁面が決壊するリスクがグッと上がること、耐震補強工事における浚渫土搬出工事は必ず必要とのこと。

セルドロン活躍の場を広げるチャンスになれば、と今回の申請には大いに期待している。

*新事業分野開拓者認定制度とは？

新商品の生産により新たな事業分野の開拓を図るベンチャー企業等を、知事が「新事業分野開拓者」として認定する制度です。

認定を受けると？

「新事業分野開拓者」が開発、生産した商品を、県が随意契約により優先的に購入することができます。（ただし、県が購入を確約するものではありません）

知事が認定書を交付するとともに、県のホームページで公表することにより認定を受けたベンチャー企業等や新商品のPRが図られます。

また、汲み上げた浚渫土の多くは、セメントや石灰である程度固形化されて、産業廃棄物として処分されていたが、何か使えないかと長々考えていた。

浚渫土とは岸辺の土、陸上植物の葉っぱや枝、魚などの生物の死骸が、長年に渡って堆積したもので多くの有機物、しかも栄養度の高い物質を含んでいるので、農作物の栽培土壌に利用出来ないか、しかもセルドロンを攪拌することで土中の通気性を確保する為、最適な環境を作り出しはしないかと考えた。

そこで、セルドロン事業で大変お世話になつている

株式会社富士植木様にご協力頂き、千葉県袖ヶ浦市にある

長浦圃場の一部（5x5m）をお借りして、

「浚渫土+セルドロン+土」による農作物栽培のフィールド試験を開始した。



左は弊社研究員の小原、右はいつもお世話になっている富士植木の島次長

植えた作物は左から「ナス」「トマト」「ししとう」「オクラ」そして中間に「パクチー」。

夏には収穫出来るであろうから、たまたま妻の実家から車で10分の場所にある長浦圃場に、毎週通つて成長を観測しようと思つている。

愛媛県のため池補強工事において、浚渫搬出工事にセルドロンが活躍し、愛媛県で恐らく最も認知度の高い特産品であるミカン農園で、「浚渫土+セルドロン+土」が再利用されて、

美味しいミカンが育ち……とても良い循環、とても美しい光景だと、一人勝手に想像している今日この頃である。

ゴルフ場にて試験施工



この現場は、ゴルフ場を潰して太陽光発電システムを設置することと、ゴルフ場の池底に溜まってしまったヘドロをセルドロンにより改質可能か試験を行いました。



試験方法として、生コンクリートの流動性を確認するスランプ試験を行い土壌が下がるかを確認した。原土は、あまりにも流動性が高くスランプ数値を測定できず、フロー値として測定することが好ましい状況でした。



セルドロンを100kg/m混合すると、スランプ値は5.3cm程度まで改善された。

150kg/mまで混合するとスランプ値は0cmになった。

簡易的に数値化する場合には、スランプ試験を用いることも選択の一つです。この試験をもとに、他の現場でも再試験を行う予定です。

セルドロン製造工場が愛媛県に

愛媛県でセルドロンの製造が開始されます。今までは、東京や福島の2か所で製造していましたが西日本に初上陸です。特に四国エリアでは、水位が高いところも多くセルドロンの需要が伸びていきそうなエリアです。現時点でも少々出荷しておりましたが、東京からの輸送費用分が高くなっておりますが、東京からの後は四国の皆様の要望にも応えていけると思います。

展示会参加情報

EE東北17にセルドロン出展へ

福島県でセルドロンの販売代理店をしている東北ヒノデサービス販売株式会社様の親会社である日之出水道機器株式会社様のブースでセルドロン体験コーナーを設置させていただくことになりました。流動性の高い土壌が瞬時に固くなるセルドロンの効果を体験できます。入場無料ですので、ぜひ皆様もご来場ください。

◆開催日時◆

平成29年6月7日(水)10:00～16:30
平成29年6月8日(木)09:30～16:00

◆開催会場◆

夢メッセみやぎ
宮城県仙台市宮城野区港3丁目1-7

キム・ギョンの コラムコーナー

韓国の小銭事情

日本で住みながら、韓国とは違うと感じたものの一つが小銭使用量です。日本ではカードより現金の使用が多いですが、そこに消費税も別途だから小銭を所持している場合が多く、小銭入れを別に所持している人もいます。

しかし、韓国の場合は2016年基準の経済活動人口のうち、クレジットカードの保有が1人辺りたり3.4枚で、カード使用量も多いので、最近はどこでもカードの使用が可能のため現金の代わりにカードだけ持つて出かける場合も多いです。

カードを使用せず、現金だけ使っても韓国は消費税が別途ではなく、基本価格にすでに含まれているため、価格の100単位でなっている場合が多く、小銭があまり残ることがなく小銭を別々に持つて出かけることは少ないです。